

磐田市平和祈念式「平和への想い」

1945 年 8 月 6 日午前 8 時 15 分。

普段と変わらない朝を迎え、人々の笑顔や幸せに満ちた日常は、一瞬にして奪われました。原子爆弾による被害は、言葉で表しきれないほどの惨状であり、私は胸が張り裂けるような思いになりました。4,000 度もの熱線による全身やけど。爆風によって崩れた家。いたるところから聞こえてくる「水をください」「お母さん」と泣き叫ぶ声。これまで戦争に関連する写真や動画をよく目にしていましたが、これがたった 80 年前の日本に起こった出来事であることを、うまく想像することはできていませんでした。

今回の広島派遣を通して、平和を訴え続ける様々な場所への訪問、特に平和資料館を周っているときに何度も私と同じくらいの子の被爆した衣服と元気に笑っている写真が展示されているのを見ました。原爆が落とされていなかったら、この子はどんな幸せな日々を送っていたのだろうかと考えると、原爆死没者慰霊碑にも刻まれた「過ちは繰り返さない」、この思いが一層強くなりました。そして黙祷による犠牲者への祈りを実際に自分の目と耳、肌で感じたことで理解を深めることができたのではないかと感じています。

また、今回第 1 回全国こども平和サミットに参加させていただきました。私は、そこで聞いたある言葉が印象に残っています。「いのる平和からつくる平和へ」です。原爆投下後、広島では 75 年間は草木も生えないだろうと言われていましたが、実際、植物は力強く再生し人々に勇気と希望を与え、路面電車も 3 日で復旧するなど、当時の方々の平和への再建の思いが強く伝わってきました。そして今年初めて被爆者が 10 万人を下回り、被爆の実相を後世に語り継ぐことのできる人が年々減ってきています。いつかは被爆者のいない世界が訪れます。私たちは戦争を経験していないため、あの日起きた出来事や核兵器の恐ろしさのすべてを知ることは難しいです。しかし、戦争体験者から学んだ事実をもとに、自分のまわりに伝えることはできます。平和を願う気持ちを持つことに加えて、これからは行動に移すことも意識し、唯一の被爆国としての使命を果たしていきます。

今もなお、世界では紛争が起きており、苦しんでいる人がたくさんいます。異なる民族や宗教の価値観を受け入れることは簡単なことではありませんが、相手の考えを尊重し、理解しようと努めることが大切だと思います。そして何より、当たり前の日常への喜びと感謝を感じることができれば平和な社会に一步でも近づくのではないのでしょうか。

一日でも早く世界に平和が訪れますように。

令和 7 年 8 月 15 日

代 表 藤ヶ谷 美怜（磐田市立南部中学校）